

# マキノ病院ニュース

第134号

— 令和6年10月1日発行 —

## マキノ病院の特徴を生かした“患者様中心の医療と福祉の実践”に向けて

診療部長 児玉 常憲

私は2003年4月からマキノ病院に内科医師として赴任させていたが、早いもので約20年間が経過しました。途中でリウマチ科も併行して担当させていただき、地域医療に献身的に取り組みされている森田理事長、西村院長をはじめ多くのスタッフの方々と共に指導をいただきながらマキノ病院の急性期医療および慢性期医療の診療に携わらせていただきました。

昨年11月より診療部長に就任し、マキノ病院内の診療に加えて高島市北部の地域包括システムを支える中心的な役割を担うための議論に介護、福祉分野とも連携して参画させていただいております。例えば最近、当院は一般病院であると同時に介護施設である朽木のやまゆりの里、新旭町の桜美林シユール、そして安曇川町の藤のれんに対してバックアップ的な役割も担うようになりまし。当院での幅広い診療体制を整えることで、これら介護施設の入所者の方々にも大きな安心を提供できるよう努めております。そして仕事をすればするほど私の未熟さ、力不足を感じるとともに、見えないところでも皆さんのコメディカルの方々の深く温かいお力を感じております。

ております。

私はマキノ病院に赴任する前に大規模病院から診療所に至るまで様々なところで診療に携わってきました。その経験上、今のマキノ病院には大きく3つの特長があると考えられます。

1つ目は早期発見、適切な対応ができるように長年にわたるCT、MRI、内視鏡などの画像診断に力を入れていること。2つ目は病院の規模の割に多くの診療科を開設し、各科に優秀な専門医が配置され各科同士の垣根が低くフットワークが軽い診療が可能であること。3つ目は寝たきり予防を含め日常生活動作改善のためのリハビリ環境が充実している

こと。

当院に通院される患者さんのうち多くは私より人生経験が豊富な大先輩であり、診療を介して多くのためになる気づきを日々いただいております。マキノ病院のこれら3つの特徴と介護福祉分野との連携を十分に生かして、診療部長として患者さんが1日でも長く健康寿命を保ち、寝たきりになることなく充実した人生が送れるように“患者様中心の医療と福祉”を実践していきたいと思っております。今後とも皆様方のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## ドクターコーナー



6月のこの欄では外反母趾の総論について述べましたので今回は対策編です。

40から60代の女性の約3割に何らかの外反母趾の傾向があり、年齢とともに増えていくようです。女性患者が男性の約1.0倍おられ、関節の柔軟さ、ハイヒール、ホルモンなどが原因といわれています。また、足底のアーチの崩れが原因でその原

## 外反母趾について その②

整形外科 笠原 壽人

因が靴にある、というお話を前回しましたが、年齢とともに筋力が弱くなり、体中の組織が緩んでくるので進むものと考えられます。ゆとりのありすぎる靴も中足骨を開くことになり、土踏まずが横に広がり、外反母趾のリスクとなります。足先に

巻くベルトも足の開きを緩和してくられる可能性があります。実際は重症の場合を除き、適切な処置を施せば手術をしなくても改善が期待できるという報告もあります。よく行われる治療に装具があります。気づかぬうちに神経が圧迫さ

れてくるようなときには有効です。ただ滑液包炎といって、皮下がプヨプヨと水を貯めているようなときにははやめたほうがいいと思います。そこに皮膚潰瘍を形成してしまうからです。足底板は足のアーチを変え

ます。これらには市販のものも多く、医療用よりデザイン性に優れている場合もあります。ただ、合わないものはかえって悪化を招く可能性があるのです。できたら病院での作成をお勧めしたいです。この欄で一番お勧めしたいのは、

外反母趾体操です。足趾でグーチョキパーを作る、両母趾に輪ゴムを数本かけて引っ張り合う、タオルを母趾で持ち上げる、両母趾でタオルを引っ張り合う、つま先立ちを繰り返す、などいろいろなものがあります。どれも足底の筋肉を鍛えたり伸ばしたりするものと考えられます。

外反母趾角が20度以下は正常とされ、30から40は中等症、40度以上は重症と考えます。重症例ではしばしば手術が必要になるようです。もちろん角度ですべてを決めるわけでもありませんが、進むほどに治療が難しくなるのはどんな病気にも当てはまります。手術方法は母趾の骨を切ったり、切つてずらしたり、種々の方法があります。出っ張って靴に当たる部分をどうやって靴に当

たらないようにするかをデザインして行います。術後、歩けるようになるまでに3か月以上を要することが多いようですが、根治も可能なようです。ただし装具、体操、手術で治療しても、これまで通り歩いて生活していくわけですから、対処をしないで放置するとまた悪化傾向を示します。

外反母趾は軽症の方は放置している傾向がありますが、軽症の時に対策することで進行を防ぐことになり。また、進行するにしたがって、歩きにくさをカバーする歩き方になり、それが腰や膝の変形を進める原因にもなります。リハビリで改善できる可能性もありますので、気になる方はご相談ください。

診療科のご案内  
 内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科・総合診療科  
 肛門外科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科  
 【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —  
 平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00  
 滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099  
 ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>